

紙面から

教育随想

「読本音読のすすめ」

岡崎市美術博物館長  
京都造形芸術大学長

芳賀 徹氏

羅針盤

伝統的な教育実践に照顧

恵田小学校長 夏井 行男

この人に聞く  
プロの歌手

宮嶋 幸代氏

特集

メディアアセンター化する学校図書館

ふれあい  
感嘆の涙

美川中学校 矢田 雅彦

師弟同行

前矢作中学校長 杉本 安  
北野小学校 山本 典弘

フォト・ヒストリー岡崎の教育  
第一回入学式(昭和五十一年)



11月号

平成11年11月1日

発行/編集  
岡崎市教育委員会



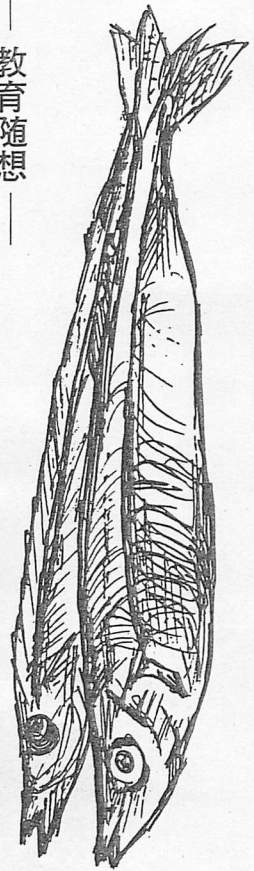
総合的な学習  
～グリーンプラン～  
「ゴミだってゴミじゃない」

今月の学校紹介  
～竜谷小学校～

緑に遊び  
緑に学ぶ



教育随想



読本音読のすすめ

岡崎市美術博物館長  
京都造形芸術大学長

芳賀 徹

私の好きな俳人松本たかし（一九〇六―五六）の作に、つぎのような一句がある。

声高く読本よめり露の宿

「露の宿」というから、これは秋の宵の情景だ。「露の宿」とは「露の世」や「露の身」などと同じく、古今新古今の時代から愛用された歌語だが、ここでは伝統的なかなさのニュアンスはない。しつとりと夜露のおいた、草木にかこまれた一軒の家のおこをいうのだろう。

作者自身の家のことではなく、作者が帰宅の途上にも通りがかった家なのではなからうか。暗い道に面して、木立ちの間から黄ばんだ燈火の明りを洩らしている小さな家。その窓があいていて、この家には元氣

な小学生がいるらしい、大きな声で国語教科書の復習か予習をしている声聞こえてきたのである。

秋の夜の暗さとひんやりとしたうるおいと、その風流の自覚などまったくない少年か少女の、ただたどしいがまじめで元氣な読本朗読の声。――まことになつかしい、昔の日本

のどこにでもあった一光景だ。作者も心うれしくなつてほえんだ気配があるが、私も「サイトサイトサクラガサイト」以来の自分の小学生時代を思い出して、心なごむ。

あのテキスト朗読を、いまも小学校ではちゃんとつづけてくれているのだろうか。あれは言葉の教育のいちばん基本的な訓練で、中学、高校でも、さらには大学や大学院におい

てさえ、日本語、外国語を問わず、テキストを理解し把握するのに、不可欠の、そして最良の方法である。デカルトの『方法叙説』でも、朗読のしかた一つで、その人の解釈がわかる、といったのはフランスの哲学者ベルクソンだった。そこまで高級な場合ではなくても、声に出してくり返し教科書を読むことは、文章のリズムをとらえ、映像を記憶し、一段と深い理解を獲得してゆくのに最短の道なのである。

それになによりも、声高く朗読することは、読む人の心とからだをのびのびと押しひろげ、開放し、すこやかにしてくれる。学級の全員が声をそろえて教科書を朗読するのも、「朗読」との字のとおり、クラスをなにかしらほがらかにしてくれるものだった。

もう一人、私の好きな俳人橋本多佳子（一八九九―一九六三）にも、読本朗読の一情景をよんだ句がある。

こがね虫吾子音読の燈をうちうつつ

これは夏の宵。ここにも元氣な朗読少年がいた。岡崎市でもあちこちの家からこんな声聞こえてくるようになって欲しいものである。

（はが とおる）



伝統的な教育実践に照顧

岡崎市立恵田小学校長

夏井 行 男

本校の秋は、六十平方メートルほどの葡萄棚の下で行う「葡萄初狩り」が始まる。六年生のM子が「葡萄は、何年か上手に世話をしなければ、実りません。今年も私のお父さんが世話をしてくれたり、郷土クラブ員に教えてくれたりしました。よく実った葡萄を感謝していただき、小学校生活最後のよい思い出にしたいです」と、式典で挨拶した。来賓としてお招きしたM子の父親が、「葡萄の木は、苗を植えて七年から十四年目くらいまでの間はとて元氣があり、去年よりも今年、今年よりも来年と実を倍々につけていく力を出します。皆さんの年は、この葡萄の木と同じです。勉強や運動に頑張ってください」と、全校の子供たちを励ましてくださった。十四年前に、学区で観光葡萄園を

ふるさとシリーズ

この人に聞く



プロの歌手

宮嶋 幸代 氏

夏の日差しがいくぶん和らいだ九月、宮嶋さんのご自宅に伺った。室内に足を踏み入れると、華やかな写真パネルが目飛び込んできた。美しい衣装を身にまとい、堂々と歌い上げる宮嶋さんの姿。壁に飾られたパネルは、宮嶋さんの歌の歴史そのものである。プロの歌手ということでさらびやかな写真に圧倒されたが、取材に応える宮嶋さんは、実に気さくで陽気な方であった。

宮嶋さんが歌の初舞台を踏んだのは小学四年生のときであったという。「父が安城の更生音楽会に連れて行

ってかれて、美空ひばりさんの『角兵衛獅子』を歌ったのが最初です。この時に一等賞をいただきました。」

これが契機となり、宮嶋さんの歌への情熱はますます強まっていった。小学五年生のときには、日本歌謡界の大御所藤山一郎先生に、歌手への夢をつづった手紙を送ったほどである。先生からの返事には、大学に行ってくださいと歌の勉強をするようにとの助言があったという。

「藤山先生の言葉を支えに、高校・大学と歌の勉強をしました。卒業後、歌の仕事を始めたのですが、そのころに藤山一郎先生と知り合うことができました。」

藤山先生の話になると、宮嶋さんの目がひととき美しく輝き出した。

「藤山先生は、私のことを『気に入った二人目の歌い手だ』とおっしゃってくださいました。惜しみなく声を出すこと、楽譜に忠実に歌うことが大事だとよく言われていました。私の歌い方は先生のお考えに合っていたんでしょね。」

宮嶋さんの表情が、まるで少女のように華やいだ。藤山先生への熱い思いが、言葉の端々からあふれ出してくる。師弟の深いきずなが伺える。

現在は、ニューミュージック系のポピュラーな歌をコンサートなどで歌っているという。宮嶋さんに、この世界に入って、苦しかったことは何かとお尋ねしてみたところ、

「苦しかったことは、何一つありません。歌のレッスンにしても、自分が好きで選んだ道ですから。」

自信に満ちたお答えが返ってきた。人生もその歌い方同様、前向きに歩んでこられたようだ。情熱的なお話を伺っているうちに、不思議な勇氣がわいてきた。

氏 名 みやじま さちよ  
住 所 欠町字狐ヶ入六八



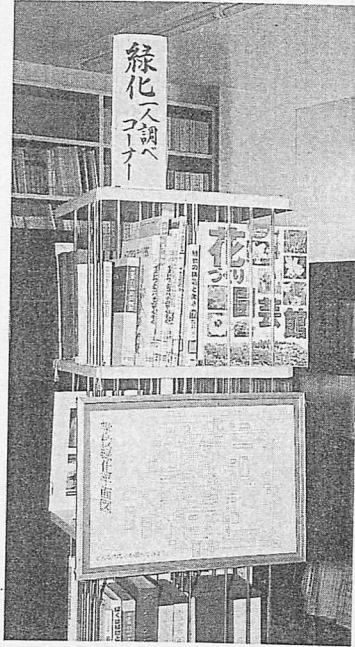
経営されている方が、「葡萄狩りの里の学校に葡萄がなくてはな」と、酸味が少なく最高の甘味を持つ「スチューベン」という種類の苗を寄贈してくださいました。今では、直径十五センチメートル、樹高一・八メートルの立派な木になっている。葡萄の育成は、自然条件の微妙な変化（日照や降雨、気温の日較差等）に大きく左右される病虫害との闘いで、とくに難しいと聞いている。郷土クラブ員を中心に、地域の方の支援と指導で、収穫後や寒の施肥、剪定、整枝、春の芽欠き、梅雨どきの摘果、夏の袋かけと一年を通して世話をしている。葡萄狩りは、それらの手仕事を毎年継続して迎えている。

現在「総合的な学習の時間」の創設をかんがみ、学校の創意工夫にゆだねられる内容と実践の試行を行っている。自校の脚下照顧は、その要である。「生きる力」の育成を、個々の伝統的な教育実践の継承と発展の中に求めたい。学びのキーワードとして「交流」と「表現力」を掲げ、活動での子供たちの感動に目を見張り、どれだけ学んだのかという評価のみに止まるのではなく、何をどのように学んだのかを大事にして。



▲友だちの作った資料での調べ学習 (愛宕小)

学習情報センター



▲校内の木々や草花についての学習コーナー (新香山中)

メディアセンター化する  
**学校図書館**

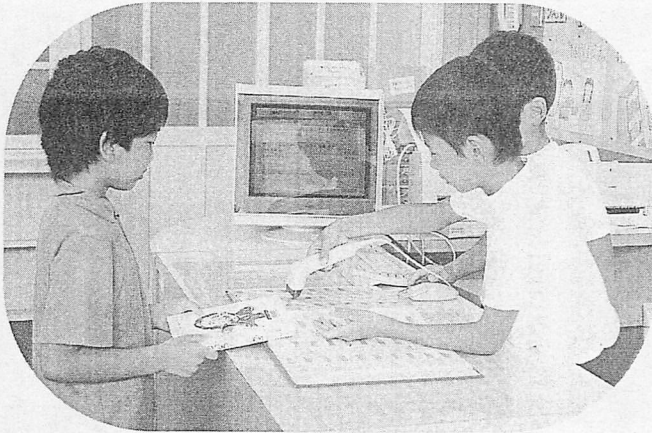
平成十五年度から十二学級以上の学校に司書教諭が配置されることになり、学校図書館についての関心がより強くなった。

また、新学習指導要領では、自分で課題を見つけ、学び方を身につける「総合的な学習の時間」が新設される。その学習活動を支える場として、改めて学校図書館の役割が注目されている。

市内の小・中学校のなかには、すでに学習コーナーを設けて関連図書を集中配架したり、余裕教室を利用して図書以外の学習資料も整えたりと、「学習情報センター」としての機能を充実させようとしているところがある。



▲インターネットを利用した調べ学習 (甲山中)



▲バーコードでの貸出（六ツ美西部小）

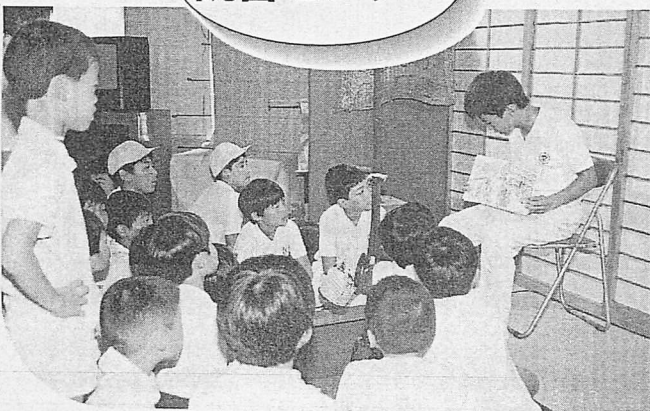


▲自然館での調べ学習（広幡小）

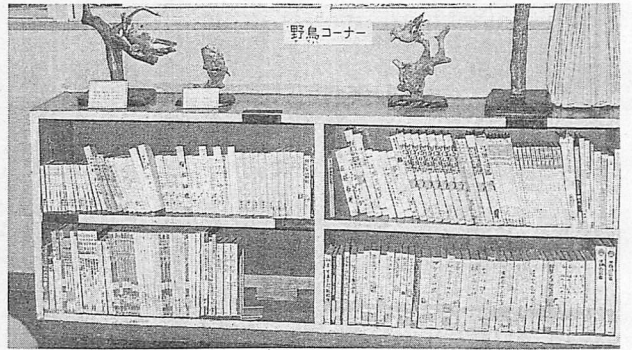


▲国際理解コーナーでの調べ学習（城南小）

**読書センター**



▲いろりを囲んでの読みきかせ（常磐小）



▲野鳥に関する資料を集めた学習コーナー（生平小）

こうしたなか、六校の小・中学校の図書館にコンピュータが導入された。なかでも甲山中では十三台のコンピュータが設置され、インターネットによる最新情報と図書資料を合わせて、調べ学習ができる環境が整えられている。

一方、小学校の図書館のなかには、「紙芝居」や「読みきかせ」の舞台や部屋を設けるなど、多様な読書活動を支える個性的な図書館づくりも行われている。

従来通りの本に囲まれた学校図書館から、コンピュータの導入をはじめ、さまざまな情報も入手できる学校図書館へ大きく変わっていくことだろう。



▲子供たちに人気のかみしばいコーナー（六名小）



▲絵本の国での読書（連尺小）

# ふれあい

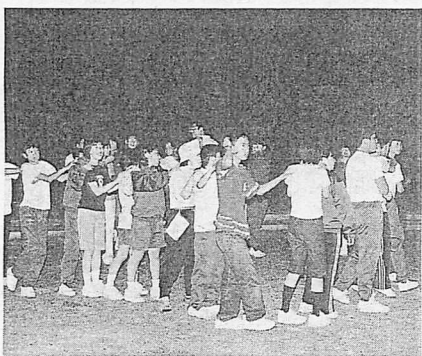
## 感嘆の涙

美川中学校

矢田 雅彦

六月に二年生の自然教室では、キャンプファイヤーを行うことにした。生徒が中心に進めることとなり、学級でエールマスターを募集したところ、「私やります」と、進んで立候補したのがA子であった。A子は明るく、いろいろなことをやりたがるのだが、最後までやり抜くことが苦手な性格である。

とみんなにも伝わるはずだと励ました。その後は、がんばって練習を続けていった。本番当日、「先生、みんな協力してくれるかなあ」と不安気に語るA子に対し、「笑顔でがんばれ」と励ました。ファイヤーが始まり、A子の力いっぱい取り組みが見られた。一つの活動が終わるたびに、A子の顔に自信のある表情が浮かぶようになった。すべてが終わるその場に残ったA子は、目に涙を浮かべ、「最高に感激しちゃった」と話してくれた。その涙は、最後までやり遂げた満足感のあふれる涙であった。A子には、最高の思い出と自信になったことだろう。



# 師弟同行

## 厳しさと笑顔

北野小学校

山本 典弘

小学校の高学年のころ、私は運動が大好きで、暇さえあれば草むらで仲間と遊ぶ野球少年でした。反面、男の子には珍しく、小さいころからピアノを習う音楽少年でもありました。

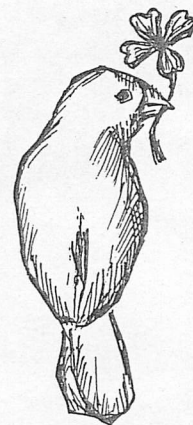
そんな私に声をかけてくださったのが杉本先生でした。「トランペット鼓隊に入らないか。」

音楽好きな少年には、心をくすぐる一言でした。

小学校生活最後の運動会が迫ったある日のことでした。

「さあ、そのところをもう一回吹いてみよう。」

笑顔で語りかける先生。唇



がはれ上がるぐらいしびれている私。

「よし、いい音だ。」

練習が終わった後は、必ず優しい言葉をいただきました。

思い起こせば、あの時の先生の真剣さとあの笑顔が、知らず知らず私の教師スタイルにもなっているような気がします。また、体育教師の私はずっと音楽好きでいられたのも、先生の音楽に対する情熱が常に心の中に残っているからだと思います。これからも、子供たちに音楽の素晴らしさを伝えていきたいと思えます。

## センスと努力

前矢作中学校長

杉本 安

それは、音楽の授業にフルー

トを取り入れる試みから始まった。四十本のフルートを導入することで、本物の音楽に少しでも近づこうとした。授業とは別に、トランペットを中心とする金管楽器と合わせて、全く新しい音楽を創ろうとした。

それを助けてくれたのが、山本君であった。音楽の素養もあるし、何よりもセンスが良かった。正直言って、高価な楽器をそろえて、失敗は許されない。このような変則的な楽器構成に、我流のオリジナル楽譜を子供に合わせて作り与えるのだが、意欲的に食いついてきた山本少年。いま考えれば、指導ではなく共に創ってきた音楽であった。

次に登場したのは、平成二年の岡崎のハーモニイのときである。大門小学校の山本先生は、六年生の子供たちと一緒に「郷（ふるさと）」という創作曲を披露してくれた。水をテーマにした素晴らしい曲だった。子供と共に歩む山本先生、ますます進取な精神で頑張ってください。



◆第十六回NHK杯全国中学校放送コンテスト  
優良賞 常磐中 中島 佑美  
入選 城北中 近藤 示佳

◆平成十一年度学校関係緑化コンクール  
特選(愛知県緑化推進委員会会長賞) 緑丘小学校  
入選(中日新聞社賞) 岡崎小学校

◆第六十六回NHK全国学校音楽コンクール  
●小学校の部  
銀賞 矢作南小学校  
●中学校の部  
金賞 六ツ美北中学校  
銅賞 竜海中学校

◆平成十一年度愛知県バンドフェスティバル  
奨励賞 城南小学校  
六ツ美西部小学校

◆第32回岡崎市中学校新人総合体育大会  
水泳競技

★新記録

性	種目	氏名	校名	記録
男	50m自由形	早川 和伯	竜海	27"9
	100m自由形	森田 達也	城北	1'00"1
	200m自由形	山田 昌亮	附属	2'12"1
	100m平泳ぎ	高木 和裕	竜海	1'59"9
	100m背泳ぎ	尾崎 勇	矢作北	★1'06"5
子	100mバタフライ	澤田 隼人	東海	1'08"2
	200m個人メドレー	栗田 勇猪	六美北	2'39"3
	400mリレー	高木・早川・鈴木・柳	竜海	4'11"1
	400mメドレーリレー	柳・高木・荒井・早川	竜海	4'42"2
	男子総合	1位 竜海	2位 南	3位 城北
女	50m自由形	清水 亜希	岩津	31"1
	100m自由形	小野田佳子	城北	1'06"6
	200m自由形	杉坂由香里	附属	2'26"4
	100m平泳ぎ	金山麻由美	矢作北	1'23"7
	100m背泳ぎ	前沼 利恵	美川	1'15"7
子	100mバタフライ	川畑 愛海	附属	1'13"3
	200m個人メドレー	柴田 舞	六美北	2'41"2
	400mリレー	大原・中並・鶴田・齊藤	竜海	4'37"6
	400mメドレーリレー	齊藤・中並・大原・渡辺	竜海	5'18"2
	女子総合	1位 竜海	2位 附属	3位 城北

◆全日本吹奏楽連盟特別演奏会  
ローリエット賞 竜美丘小学校

◆第五十四回東海吹奏楽コンクール  
●中学校B編成の部  
金賞 岩津中学校  
●中学校A編成の部  
銀賞 竜海中学校

◆岡崎市明るい選挙啓発ポスター(特選のみ)  
梅園小 六年 山本 恵利  
大門小 六年 石川 友理  
六美西小 六年 狩野 泰輝  
南中 二年 林 綾香  
六美北中 二年 市沢沙絵子  
六美北中 二年 犬塚 未希

◆岡崎なぎなた選手権大会  
●演技試合  
三位 羽根小五奉 深谷 美子  
●個人試合  
二位 羽根小五奉 深谷 美子

◆愛知県ジュニアオリンピック  
陸上競技大会  
男子優勝 美川中 酒井シエリコ  
二年百M 竜海中 伊藤 正人  
三年百M 常磐中 鷲見 知彦  
三年百M 岩津中 梶本 健太  
女子優勝 矢作北中 堀 真弓  
一年走高跳 葵 中 畑野 杏奈  
二年走高跳 矢北中 本田 唯



▲平成11年度学校関係緑化コンクール  
——特選(緑丘小学校)

◆第十九回岡崎市中学校すもう選手権(優勝のみ)  
女子低 六名小 山田 愛 三位 竜南中学校  
女子高 根石小 前田 遙 三位 東海中学校  
男子一年 城南小 柴田 浩樹 優勝 矢作北中学校  
男子二年 細川小 吉田 圭佑 三位 常磐クラブ  
男子三年 附属小 稲垣 大樹 三位 矢作中学校  
男子四年 男川小 青山 貴昭  
男子五年 美合小 加藤 瞳  
男子六年 附属小 野村 泰資  
男子中学 附属中 森下 弘康

◆第三十五回西三河総合バレーボール選手権大会  
男子優勝 甲山中 林 聖子  
女子優勝 六ツ美北中学校

◆岡崎市総合剣道大会  
●個人  
男子優勝 矢作中 庄田 圭吾  
女子優勝 甲山中 林 聖子

# フォト・ヒストリー 岡崎の教育

## 第1回入学式 (昭和51年)

・カット

矢作中 前野 奈津子

高度経済成長期のただ中、住宅、道路、公園など、地域の区画整理が進む。それにともない学童期の子供をかかえる家庭が急増、学校は子供たちであふれる。昭和四十五年度の岡崎市の小学校の児童数は一八、五七五人、昭和五十一年度は二二、四八五人となり、六年間で一・二倍以上の増加となった。

そこで新設校が登場する。大門小学校もその一つである。田園地帯にできたため、周辺に大きな樹木が見当たらない。伝統校の豊かな緑に代わり、見晴らしのよい運動場と真新しい三階建ての鉄筋校舎が、児童の心に誇りと希望をもたらした。

保護者の羽織姿には、我が子の入学とともに学校の発展を祝う厳肅な空気が漂う。



写真提供 大門小

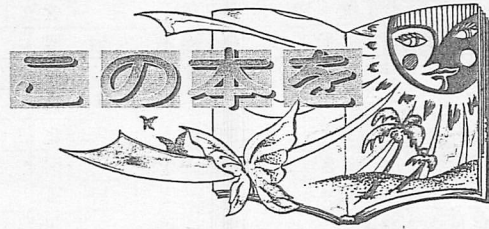
おはじきのひんやりした感触に幼いころを思い出すかのように、一つ、また一つと手に取っては元に戻すお年寄り。そんなたわいもない仕事を、子供たちのあたたかいまなざしが包み込む。老人保護施設を訪問したその日、心がほぐれていくのを味わった。

白いパレットに絵の具を出し、落ち葉一枚を描く。緑から黄、黄から赤へ、小さな体の中に微妙な色合いがひしめく。「踏めなくなっちゃった」子供の一言を思い出した。その感受性と自然への謙虚な心に、筆を持つ私も今やつと近づくことができた。

シ  
オ  
ス  
ア

秋の読書週間、図書館は思い思いに読書を楽しむ子供たちでにぎわう。コンピュータで図書の検索をする子供たち、傍らではインターネットに目を輝かす子供たちもいる。変わりつつある図書館のイメージに、これからの教育の方向性がうかがわれるようだ。

「素顔も美しい人だ」宮嶋さんを見てそう感じた。顔はその人の履歴書のようなものだと言ったことがある。宮嶋さんの表情からは、気品と情熱があふれ出ていた。きつと満足できる人生を歩んでこられたのだろう。自分もこのような人生を送っていききたいと思った。



- \*ことわざのころ 外山滋比古 ￥1500  
チクマ秀版社
- \*マロニエの花が言った 上・下 清岡 卓行 ￥3500  
新潮社
- \*環境ドラッグ 船瀬 俊介 ￥1500  
築地書館
- \*子どもたちは訴える 尾木 和英 ￥1900  
文教書院

\*貧乏だけど贅沢 沢木耕太郎 ￥1524  
文藝春秋  
著者が20年以上続けている対談の中で、旅をテーマにしたものを10編集めた書である。

贅沢というのは、お金を使う旅ということではない。「何が贅沢な時間なのかは人によって異なる。だが、不自由であることが未来に向けての贅沢な時間を鍛え上げるという点では共通している」と著者は語る。対談相手を事前研究していく著者の姿勢にも、この書の味わいを感じる。